



宇久中だより

令和2年4月27日

入学式号

文責 校長 古庄 忍

入学おめでとう！！

さん さん さん さん

4月7日（火）に、第74回入学式を挙行いたしました。

新型コロナウイルス感染拡大予防により、ご来賓の方々をお招きすることができませんでしたこと、心よりお詫び申し上げます。

ピカピカの新入生におけて校長式辞として次のようなお話をいたしました。

校門の桜が満開に花開き、宇久島に春が来ました。澄み渡る海と空の青、木々の緑、そして、桜の、淡く可憐な桃色の融合に、「春が来た、山に来了、里に来了、野にも来了」と心躍る季節となりました。

保護者の皆様、お子様の中学校ご入学、心よりお喜び申し上げます。おめでとうございます。先程、4名の宇久中学校への入学許可をいたしました。その宣言と同時に、これまで大切に育てて来られたお子様をお預かりするその責任の重さに襟を正したところでございます。職員一同、ご家庭と連携しながら、誠心誠意お子様のより良き成長を支援してまいりたいと存じます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

壇上に掲げております入学式を示す看板は、昨年度、地域の方々、PTAにより作製していただきました。ご協力いただきました方々に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さん さん さん さん 宇久中学校への入学おめでとう。先生方は皆さんの入学を心待ちにしていました。皆さんにとっては、理科の授業や行事などで通いなれた校舎であると思います。しかし、正式に中学生として通い始めるこの校舎を、今までとは違う心と目で見えてほしいと考えています。それは、心構えと言い換えてもいいでしょう。また、中学生になったのだという自覚を持つと言ってもいいでしょう。

宇久中学校の教育目標は、「ふるさとを愛し、主体的に学習し、自らの判断で正しく行動できる生徒」です。中学校では、今まで以上に、自分で考えたり、進んで行動したりすることが求められます。それは、学校だけではなく、家庭でも、地域でも同じです。皆さんならば、それができると信じています。

そこで、私から、自分で考えたり、自分の判断で正しく行動したりするときに柱として心に留めておいてもらいたいことをお話します。

「いのちを大切にし、いのちを表現する」ということです。

「いのちを大切にし、いのちを表現する」

「いのちを大切にする」 ことば通りに、まずは自分のいのちを大切にしてほしいということです。計算しようとしても計算できないような、奇跡が重なって頂いた「いのち」です。それを途中で自分の手で断ち切ってしまうということは決してあってはいけません。

〔裏面につづきます〕

そして、自分以外のいのちを大切にしてほしいということです。自分の周りには自分と同じように「いのちを大切にしよう」としている存在がたくさんあります。なぜ、その人や物を汚すような言葉かけや行動ができるのでしょうか。

今、いのちに関わる問題として新型コロナウイルス感染予防対策があります。感染予防や感染拡大予防対策は大切です。しかし、感染した人に対する心ない言葉がネット上に書き込まれているといいます。もしも、自分以外のいのちに対して軽んじるような、傷つけるような言葉を発するのが人間の本性ならば、そうしたことがなくなる世界を作るために、常に相手の立場に立って物事を考える心を育てる努力が私たちには必要です。

次に、「いのちを表現する」

どんなことだろうと難しく感じるかもしれません。まずは、何事にも一生懸命取り組むことが「いのちを表現する」ことにつながると考えます。「一生懸命がんばりなさい」と言われると、「勉強苦手だな」とか「運動は苦手なんだけどな」と不安になる人もいるでしょう。少々苦手でもいいじゃないですか。失敗することもあるでしょう。自分の能力に応じて、精一杯努力をすることが一番大切です。苦手だからと努力することをあきらめてしまうのではなく、そのことに少し余計に力を入れてみる。例えば、挨拶のときの声が小さい人は、自分で意識して少し余計に大きな声で挨拶を行ってみる。人前で発表することが苦手な人は、少し余計に勇気を出してみる。得意なことは、今まで以上に得意になってほしい、苦手なことには少し余計に力を入れてみる。そうして、自分のいのちを表現しようと心がけてみる。いのちあることに感謝をし、そのいのちに自分の特色を出そうと努力をする。自分らしいいのちの表現方法を探したり、苦手なことにも挑戦し自分の表現方法を増やす努力をする。そして、宇久中学校の生徒のみんなが、お互いにいのちの表現を味わい、認め合い、褒めあって、みんなで成長しあってほしいと思います。

さあ、四名の一年生の入学で、令和二年度の宇久中学校の完全なるスタートです。みんなが、今日よりも明日、明日より明後日と一歩、一歩、成長していく姿を見るのが楽しみです。自分と自分以外のいのちを大切にしながら、一人一人の力が発揮され、味わい深い、いのちの表現がなされることを期待して式辞といたします。
